別記第１号の２様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程　通信）

事業者名：公益財団法人武蔵野市福祉公社

※実施方法については、「実施要綱」別紙３「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）		実施計画					
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容	
1　職務の理解	6 時間	1　職務の理解			6　時間	1　職務の理解	
			通学	通信	合計		
	(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左	3	0	3	(1)	講義及び演習。介護サービスにはどのようなものがあるかなどグループワークと全体共有。
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左	3	0	3	(2)	講義及び演習。介護職の働く現場のイメージを共有し、正しい知識として身につけるためのグループワークと全体共有。
2　介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2　介護における尊厳の保持・自立支援			9　時間	2　介護における尊厳の保持・自立支援	
			通学	通信	合計		
	(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左	0	6	6	(1)	自宅学習。根拠法とともに介護職として必要となる具体的な人権について学ぶ。
	(2) 自立に向けた介護	(2) 同左	1.5	1.5	3	(2)	講義及び演習、自宅学習。エンパワメント、ICFなどの用語の理解を事例をもとに認識し、自立支援サービスを提供するうえでの注意点等についてグループワークと全体共有。
3　介護の基本	6 時間	3　介護の基本			6　時間	3　介護の基本	
			通学	通信	合計		
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左	2	0	2	(1)	講義及び演習。具体例を挙げ、介護にかかわる専門職にどのようなものがあるかなどグループワーク。
	(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左	1	0	1	(2)	講義及び演習。利用者、家族と関わる際の留意点についてグループワークと全体共有。
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 同左	0	2	2	(3)	自宅学習。事故予防、安全対策、感染予防など介護における安全確保を行う際に考えられることについて学ぶ。

	(4) 介護職の安全	(4) 同左	0	1	1	(4) 自宅学習。健康管理、ストレスマネジメントについて、留意点、対策について学ぶ。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間		4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間				4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
			通学	通信	合計	
	(1) 介護保険制度	(1) 同左	1.5	2.5	4	(1) 講義・及び演習、自宅学習。通学では介護保険制度の流れ、ポイントをグループで意見交換をしワークシートにまとめる。通信ではテキストを熟読し、理解を深める。
	(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 同左	0	2	2	(2) 自宅学習。障害福祉に関わる各種制度とその背景について、テキストを熟読・課題に取り組み理解を深める。
	(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左	0	3	3	(3) 自宅学習。医療の職種について理解し、介護職として理解すべき連携事例やリハビリテーションの知識についてテキスト・課題で学ぶ。
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間		5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間				5 介護におけるコミュニケーション技術
			通学	通信	合計	
	(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義及び演習。コミュニケーションとは何か、言語・非言語コミュニケーションについて、課題に応じた表現方法などを体現する体験型学習を行う。
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左	0	3	3	(2) 自宅学習。5(1)で学習したことを踏まえ、介護職が職務上行うコミュニケーションについて理解する。記録する
6 老化の理解 6 時間		6 老化の理解 6 時間				6 老化の理解
			通学	通信	合計	
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義及び演習。加齢や老化に伴う心身の変化や疾病について、グループで話し合う。
	(2) 高齢者と健康	(2) 同左	0	3	3	(2) 自宅学習。高齢者に多くみられる疾患、状態などについてグループワーク。その後、生活上の留意点と、支援者が留意すべきことを学ぶ。
7 認知症の理解 6 時間		7 認知症の理解 6 時間				7 認知症の理解
			通学	通信	合計	
	(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左	1	0	1	(1) 講義及び演習。認知症についてそれぞれが持つイメージ、知識をグループ内で発表し、基本的な理解について講義。

(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左	0	3	3	(2)	自宅学習。テキスト・課題によって認知症の医学的な基礎知識を理解する。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左	1	0	1	(3)	講義及び演習。認知症の方の心理、行動の特徴について学び、事例を基に認知症利用者への対応をグループで話し合い、発表する。
(4) 家族への支援	(4) 同左	1	0	1	(4)	講義及び演習。講義を基に、家族が抱えるストレスや対処法をグループ内で考え発表後、支援の留意点、活用できる社会資源の講義。
8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間				8 障害の理解	
		通学	通信	合計		
(1) 障害の基礎的理解	(1) 同左	1	0	1	(1)	講義及び演習。障害種別について、認識をグループ内で出し合う。ICFを用いて、障害福祉の支援について考える。
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 同左	1	0	1	(2)	講義及び演習。講義後に、それぞれの障害に応じた支援の留意点をグループワーク。
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 同左	1	0	1	(3)	講義及び演習。家族の心理を理解するとともに、介護職としての関わりについてグループワーク。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 こころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習 10～13時間	ア 基本知識の学習 12 時間				ア 基本知識の学習	
		通学	通信	合計		
(1) 介護の基本的な考え方	(1) 同左	3	3	6	(1)	講義及び演習、自宅学習。尊厳保持と自立支援を目指した介護について学び、通学ではグループワークを行いながら理解を深める。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(2) 同左	3	0	3	(2)	講義及び演習。学習と記憶、感情と意欲に関して基礎を学ぶとともに、老化や障害の受容についてグループで話し合う。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 同左	0	3	3	(3)	自宅学習。身体の各部の名称や機能について理解し、介護職として必要な基礎知識を学ぶ。
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51 時間				イ 生活支援技術の講義・演習	
		通学	通信	合計		
(4) 生活と家事	(4) 同左	6	0	6	(4)	講義及び演習。事例を通して、自立支援を目指した家事支援についてグループワーク。

(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左	0	6	6	(5) 自宅学習。介護職として必要な居住環境整備に関わる知識を学び、理解を深める。
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左	6	0	6	(6) 講義及び演習。事例を通して自立に向けた更衣、整容の方法を計画し、計画に基づいて実技演習を行う。
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	6	0	6	(7) 講義及び演習。事例を通して自立に向けた移動・移乗の方法を計画し、計画に基づいて実技演習を行う。
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	6	0	6	(8) 講義及び演習。事例を通して自立に向けた食事介助の方法を計画し、計画に基づいて実技演習を行う。
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	6	0	6	(9) 講義及び演習。事例を通して自立に向けた入浴・清潔保持の方法を計画し、計画に基づいて実技演習を行う。
(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	6	0	6	(10) 講義及び演習。事例を通して自立に向けた排泄介助の方法を計画し、計画に基づいて実技演習を行う。
(11) 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	6	0	6	(11) 講義及び演習。事例を通して自立に向けた睡眠介助の方法を計画し、計画に基づいて実技演習を行う。
(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	3	0	3	(12) 講義及び演習。終末期についての体験談、またはイメージをグループで話し合い、死の兆候、終末期介護の留意点を講義。
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)	(実習)※ 0 時間				(実習)※
介護実習 〇時間					
ホームヘルプサービス同行訪問 〇時間					
在宅サービス提供現場見学 〇時間					
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 12 時間				ウ 生活支援技術演習
		通学	通信	合計	
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	6	0	6	(13) 講義及び演習。事例をもとに、個々でアセスメント、計画の立案、評価の基準をワークシートにまとめ、グループ内で発表する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	6	0	6	(14) 講義及び演習と評価。総合生活支援技術演習の2事例を基に、『モーニングケアから朝食』『整容後の外出』の一連の支援について実技演習後一人ずつ習得評価を行う。

10　振り返り	4 時間	10　振り返り	4　時間				10　振り返り
				通学	通信	合計	
	(1) 振り返り		(1) 同左	2	0	2	(1) 講義及び演習。研修や実習を通して学んだことを振り返る。研修受講前後の介護の認識についての変化をグループで話し合い全体で共有する。
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	2	0	2	(2) 講義のみ。就業、キャリアアップ等についてテキストに沿って学ぶ。
追加カリキュラム	時間						
計	（ 130 時間 ）	計	（ 130 時間 ）				

※「９こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、１２時間以内とする。